

2021年12月12日（降臨節第3主日C年）牧師メッセージ

「聖霊によって、主を知る」

（ルカによる福音書 1:39-45）

司祭ヨセフ太田信三

いよいよ降臨節最後の主日を迎えました。アドベントクランツの四本目のろうそくは「愛」です。神が愛する御子をわたしたちのところへと降ってきます。そしてその御子を通して、わたしたちは神の愛を知ります。そうして、わたしたち自身のうちに愛がもたらされ、今度はわたしたちが誰かを愛することができる、愛に生きる道が開かれます。わたしたちはこの主日、いわば降臨節の最後の仕上げとして、自らを開き、神の愛する御子をお迎えする備えを致しましょう。そのために、今日の福音を通して「聖霊」のお働きをあらためて感じましょう。

そうです。クリスマスを迎える最後の備えの主日のキーワードは聖霊なのです。この聖霊によってこそ、わたしたちはまことの喜びのうちに來るべき日を迎えることができます。今日の福音がまさにそのことを証ししています。今日はマリアがエリサベトを訪ねたお話しでした。聖霊によって子を宿したマリアは、いとこのエリサベトも懐妊したことを知って彼女に挨拶するために急いで出かけました。マリアの挨拶を聞いたとき、エリサベトの胎内の子がおどりました。そしてエリサベトは聖霊に満たされ、マリアとその胎内の子は祝福されている、と声高らかに言いました。「わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださ

るとは、どういうわけでしょうか。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」マリアがなぜ急いでエリサベトのところに行ったのかというと、もちろん、不安や怖れを分かち合いたかったということがあったでしょう。しかしそれ以上に、この祝福を、喜びを分かち合いたかったからです。そして、不思議なことに、マリアが説明したわけでもないのに、エリサベトはマリアの胎内の子が「主」であることを知りました。どうしてわかったかと言うとそれこそが、エリサベトを満たした聖霊によってです。エリサベトがはっきりと「これは聖霊の働きだ」と分かったわけではありません。彼女の「胎内の子どもがおどる」ということによって、エリサベトは聖霊の働きかけを受け、「主」であることを悟ったのです。聖霊はときにわたしたちの気が付かないような仕方で働きます。人が喜びに満たされる時、そこには聖霊が働いています。マリアとエリサベトのお腹の子供同士も聖霊によって結ばれて、そこに踊るほどの喜びが溢れました。聖霊によって結ばれたマリアとエリサベトに主にある喜びが溢れたのです。主イエスの誕生の喜びはこのように、聖霊の働きによって伝えられるのです。

マリアに子を宿し、エリサベトに「主」の誕生を悟らせたのと同じように、聖霊はわたしたちにも働いています。わたしは降臨節のはじめに「冒険に出ましよう」と皆さんに呼びかけました。「信じる」という冒険です。マリアもヨセフも、

羊飼いの御告げを信じた先にクリスマスの喜びが訪れたのです。御告げを受け入れる、それは目に見えない神の働きである聖霊を受け入れることです。ですから今日、聖霊がわたしたちにも働いていることを信じる、ある意味これがクリスマス前の冒険の仕上げと言えます。お腹の赤ちゃんが踊る、そしてマリアとエリサベトを喜びで満たした。それと同じ聖霊がわたしたちにも注がれていることを、あらためて信じ、感じるのです。

聖霊の働きはどうして知ることができるのでしょうか。それは、エリサベトがお腹の子が踊ることで、聖霊の働きを感じたように、わたしたちにも出来事によって知らされます。たとえば、この交わりにわたしたちが今日、集められている。そのことがわたしたちに聖霊が働いていることの何よりの証です。100%「じぶんの選択で」ここにいる人はいません。沢山の出会いや出来事の積み重ねの先に、わたしたちは今、ここにいます。それは偶然言ってしまうまでもありますが、しかし、そこには確かに聖霊が働いていたのです。であれば、それは偶然ではなく、導きです。全く関係ないはずのわたしたちがここに集められている。そこにこそ神の力、聖霊が働いている。わたしたちにも聖霊が、マリアとエリサベトと同じ聖霊が働いている。わたしたちもエリサベトとマリアと同じ聖霊によって結ばれ、躍り上がるほどの喜びを分かち合うために、聖霊によってここに集められているのです。そして、この聖霊によってこそ、エリサベトがそうであったよ

うに、わたしたちは「主」を知ることができるのです。

気が付かないような方法で、聖霊はわたしたちに「主」の存在を知らせています。風は、気にしなければただ過ぎ去っていただけです。しかし、それを全身に感じるなら、それは寒さや、爽やかさを伝える地球からのメッセージとして受け取ることができます。それと同じように、降臨節最後の主日にあって、わたしたちは今日、聖霊の働きをエリサベトの胎内で子がおどったことで表されたように、わたしたちにも日々表されている聖霊の働きを感じ、わたしたち自身にも聖霊が働いている事実を確かにしましょう。

聖霊の働きを受け入れること。マリアとエリサベトが身ごもったように、計算とか理解というものを超えて、聖霊の導きに身を委ね、この体で感じること。これが降臨節最後の主日にわたしたちに求められていることです。「主」がお生まれになる。わたしたちのためにお生まれになる！その喜びを分かち合うように、わたしたちは聖霊によってここに集められています。マリアを迎えたエリサベトのように、クリスマスの喜びをわたしたちも、わたしたちのうちに宿られる聖霊によって感じましょう。聖霊によってここに集められているわたしたちだからこそ、分かるはずです。

神の偉大な働きが聖霊によってわたしたちにも及んでいる。主がお生まれになる。マリアとエリサベトとともに、聖霊の働きに身を委ね、喜びに満たされて、

来るべき日を迎えましょう。